

## 1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和5年4月10日

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676300132
法人名	有限会社園田福祉サービス
事業所名	グループホーム愛の家
所在地	鹿児島県曾於市大隅町月野1562-3 099-471-2220
自己評価作成日	令和5年2月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.wam.go.jp/">http://www.wam.go.jp/</a>
-------------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和5年3月26日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・B棟理念を全うし毎日のケアを行う。
- ・肝臓癌の女性91歳認知症があっても自宅で生活しているのと同じように、安心して生活が続けられるよう支援する。
- ・入居者と職員の信頼関係をしっかりと築き、個々の担当者は担当の利用者に対して責任を持って接する。
- ・職員は認知症ケアの専門食としての自覚を持ち、常に自己研鑽を行いプロとしての支援を行う。
- ・食生活が健康の源であると確信している。食材にこだわり無農薬で野菜を作り提供するよう努力している。行事食は必ず準備して、季節を感じるとともに、食事を楽しみ健康を維持することに努力する。
- ・入居者が住み慣れた場所で、現在の生活を維持しながら、安心して終末期を迎えられるよう支援する。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは幹線道路から少し入った静かな場所にあり、周辺にはスーパーやJA市場、市役所支所、医療機関等のある利便性のよい環境に所在している。近隣住民との関係も良好で、野菜のお裾分けを頂いたり、ホームで収穫した野菜を近隣に配る等、相互に交流している。また、ホームを支援する近隣住民で組織された「消防協力隊」があり、消防訓練等に参加してもらっていたが、現在はコロナ禍の為、参加することは自粛しているが、万一の際には協力が得られるよう関係を継続している。

「安全な食べ物をおいしく食べられるように支援する」と理念にあるように、ホームで自家栽培している無農薬野菜を日々の食卓で提供しており、また、献立表は作らず、冷蔵庫内にあるものや旬の野菜、利用者の食べたいものを尋ねて当日のメニューを決めている為、家庭的であり、食べたいものが食べられる嬉しさが利用者の喜びにつながっている。

行事食にも力を入れており、正月のおせち料理やひな祭りメニュー、流しソーメン、餅つき、年越しそば等、四季折々の食事を楽しめるよう工夫し提供している。また、コロナ禍ではあるが外食にも出かけており、あじさい見物に訪れた「蓬の郷」では、フロアを貸し切って昼食を楽しむ等、コロナ感染症対策を徹底させた上で、楽しい時間を過ごすことができ、コロナ禍の思い出になっている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	実施できている	管理者、職員は利用者への接し方や判断に迷った時は、理念にある「まると受け止め」に立ち戻るようにしており、振り返ることで理念の再確認を行い実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染症の影響で通常には出来ていない。	コロナ禍の為、地域行事はほとんどが中止になっており参加できない状態が続いているが、日常的に散歩に出かけた際は、近隣住民と挨拶や会話を交わしている。また、ホームで収穫した野菜をお裾分けする際にも積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	通常の認知症の相談は電話等で受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議での大事な意見は職員間で共有し、申し送りしている。	コロナ禍ではあるが感染症対策を徹底した上で、対面による会議を年6回実施している。会議には家族や民生委員、行政職員等が出席し、ホームでの活動内容の報告や助言、要望を尋ねるほか、地域での出来事などの情報をもらう機会にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	実地指導等で指摘されたこと等は、改善できよう取り組んでいる。	行政とは介護関係の書類提出時や業務を行う上での不明点、判断に迷う事案が生じた際に出向いたり、電話で連絡を取り助言を受けている。また、行政主催の研修にオンラインで参加したり、認知症ホームの会でも顔を合わせ協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設置し、拘束を実施する場合はミーティングで話し合い、最低必要なことのみを行う。夜間の玄関施錠は夜間のみ行う。拘束を行う時は、家族に理由を説明し同意書をもっている。ミーティング時に必要性を話し合う。	身体拘束や虐待に関する研修会を年2回、年間研修計画に組み込み実施するほか、年6回職員会議と併せて身体拘束委員会を実施している。夜間のみ安全に配慮して片側にベッド柵を2本使用する利用者がおり、委員会において繰り返しベッド柵の必要性についてを話し合い、ベッド柵を外す機会についてを検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修が行えなかったが、職員同士で常に心がけて虐待が行われないうように注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	リモートでの研修には管理者は参加しているが、全体での研修は行えなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	実施できている。		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	家族からの意見が出た場合は、ミーティングで対策を話し合う	日々の会話や様子から利用者の嫌がることや好むことを把握し、家族からは面会に来られた時に日常の様子を報告し、家族の意見や要望を伺っている。コロナ禍により毎年実施していた家族会が実施できない状況が続いているが、令和5年度は敬老会に併せて実施を検討している。	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	月1回会議を開き話し合い反映している。	毎月の職員会議をはじめ、申し送り時や役員による個別面談により意見や提案を聴いている。また、気付いたこと等を自由に記入することができる「申し送りノート」の活用や各ユニットの主任を通じて管理者に意見が伝えられる流れができています。	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	労働時間や労働条件については常に働きやすい職場を目指して心がけているが、給与水準の向上は厳しいこともある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>コロナウイルス感染症で積極的な参加は出来なかった。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他職場や、職種の交流会はすべて中止だった為で来ていない。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来ている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初はメールやラインでこまめに様子を知らせるようにしている。家族との信頼関係は出来ている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の不安を聞きどのように対応したらよいか話し合う		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は関係作りを念頭におき寄り添って話を聞くようにする。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に対しては面会を頻繁にしてくださいようお願いし、窓越しではあるが面会して頂き関係を断ち切らないよう支援する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族との面会は出来ている。 (窓越し) 友人やお出かけはお断りしてきた。	これまでの馴染みの関係を入居前アセスメントにおいて把握すると共に、入居後も関係が途切れないよう家族との面会や自宅に連れて帰る機会を設ける等、家族と職員が協力して支援している。希望があれば感染症対策を行った上で訪問の手助けもしたい意向である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、トラブルが起きないように座る場所や角度など工夫している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなったり入院された場合も家族との連絡や再入所の相談支援を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを大切にケアプランを立てている。その都度状況に応じて対応している。	本人の思いをアセスメントで聞き取り生活歴等の情報を参考にすのほか、日々の言動から思いを汲み取り支援につなげている。気付きは申し送りノートや介護記録に記入して申し送り時に情報を共有し、本人本位の暮らしの支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族にこれまでの生活歴を聞き環境整備等に役立てる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々に合わせて生活リズムの提供を行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時にチームで話し合い、本人が暮らしやすい環境を作るためのアイデアを出し合い計画作成を行う。 家族の意見ももらい、常に検討を行う。	本人の意向は日頃の会話や言動から、家族の意向は事前に尋ねプランに反映させている。また、モニタリング実施や日々のカンファレンスに加え、担当者とケアマネージャーが意見の擦り合わせを行いながら全員でケアプラン内容を検討し作成している。身体状況が変化した場合にはプランを見直し、現状に即したケアプランに作り直している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録や申し送り等を行い、必要に応じて介護計画の見直しをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化  本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外泊、外出等、コロナウイルス感染症のため実施できていない。		
29		○地域資源との協働  一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は出来ていない。ボランティアもお断りしてホーム内で職員と入居者のみでイベントを行う。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援  受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な往診を受けられる。急変時の往診や適切な病院紹介等指示も受けられる。	これまでは家族と職員が受診を支援していたが、コロナ禍の現在は、感染症対策として他科受診も含め受診全般を職員が支援している。訪問診療や訪問看護も利用して健康管理ができており、利用者家族の安心につながっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内の看護師は、利用者の体調等をしっかり把握して主治医や訪問看護師に伝え、連携が出来ている。症状を的確に伝えることで、主治医やかかり付け医の受診につなげる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者の情報を、書面や電話で報告し連携を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、面会時や必要に応じて電話をおこない、家族の思いや意向を聞き、職員同士で共有したケアを行っている。	年間研修計画にターミナル研修を組み込み、これまでに看取り支援の事例もある。入居時に「医療介護及び事前指定書に関する同意書」を説明し、入居後に主治医がターミナルと判断した際に「終末期の看取り介護について」を説明している。看取り支援を行う際は繰り返しカンファレンスを行い、支援方法について検討し連携に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回は救急隊の指導を受ける。又ホーム看護師による、急変時の処置法を学ぶ		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回避難訓練実施。又別途、消火器の使用訓練も行う。</p> <p>4年度は1回は、消防署立会、1回は自主訓練だった。</p>	<p>夜間想定を含む火災訓練を年2回実施。1回は消防署立ち合いの下、1回は防災設備会社立ち合いの下で実施している。このほかに年2回救急救命訓練も実施して万一に備えている。備蓄については、水や缶詰等の食料と、備品としてカセットコンロや防災トイレ等を準備している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の利用者様の人格を尊重し個々に合わせた声かけを行う。	理念に人権尊重とプライバシー保護を掲げており、事ある毎に振り返るようにしている。トイレ誘導の際はさり気なく誘導につなげたり、ポータブルトイレを使わない時は押し入れの中に入れて管理する等、人目につかないよう配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるように個々に合わせた支援をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせたケアの提供をしている。無理強いはない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	髪染めや散髪を実施して、何時もきれいによ声かけする。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下ごしらえ等、出来ることは、職員も間に入り行っている。出来る人が少なくなっているのが現状です。	包丁やピーラーを使用して野菜の下ごしらえをしたり、配膳下膳を手伝う等、利用者も食事の支度に参加している。献立表は作らず、冷蔵庫内にあるものや旬の野菜、また、利用者の食べたいもののリクエストに応じて当日のメニューを決めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量水分量の確認をし、個々に合わせて水分補給をしている。難しい方はゼリー等で対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々のADLに合わせて口腔ケアをしている。義歯は、ポリデント消毒をしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のおむつ交換やトイレ誘導を行っている。排泄チェック表を記録している。	排泄チェック表を参考に個々のタイミングに合わせてトイレ誘導を行っている。精神的、経済的負担を考慮し、可能な限り布下着で過ごせるよう、また、状況に応じてパットの容量を変える等、排泄補助用品に頼らない排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を基に排便の確認を行い、主治医や施設看護師の指導の下、緩下剤を使用している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は本人のペースに合わせて実施。拒否がある方は、色々声かけの工夫、時間の工夫をしている。	週2回午後2時からの入浴を基本としているが、希望があれば予定日以外でも入浴は可能である。また、重度化しても浴室まで移動しやすいようリクライニングシャワーキャリーを備え、入浴後の皮膚ケアや水分補給にも努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に合わせて入眠の時間を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	確実に飲んで頂けるよう、服薬の確認をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	塗り絵や編み物、パズル等、個々に合わせた楽しみを行ってもらう。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染症の流行により、病院受診以外の外出は控えている。家族との面会も窓越しで行い。ふれあうことができなかった。食事会はお店のホールを貸しきりで、職員と利用者だけで行う。	コロナ禍の為、これまでのように自由に外出することは難しいが、季節変化を味わえるよう利用者の体調等を考慮しながら日常的に散歩に出かけたり、運動公園、やぎろうの里に花見に出かける機会を設け、気分転換を図っている。また、あじさい見物に出かけた際は、フロアを貸し切って食事をする等、普段とは違う食事を楽しむことができた。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	現在は現金を所持している人はいない。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	自分から要望する人はいないが家族から掛かってきたときは、つなぐようにしている。		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	季節や行事に応じて壁紙等の作成を行っている。自室がわかるように、個々に合わせて表札を大きくしたり工夫している。	共用空間は皆で過ごす場所であることから、日々の消毒や換気、室温調整等、感染症対策の徹底に努めている。フロア内には季節の花を飾ったり、利用者と職員が一緒に作った季節毎の作品を掲示することで季節感を出している。トイレについては、試行錯誤の末、利用者の安全と開閉のしやすさからアコーディオンカーテンを用いるなど工夫している。	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	ソファやテーブルなど本人のニーズに合わせた居場所の提供を行う。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>個々に合わせて、テレビやソファ、机等を持ち込んでもらっているが、家族の協力があまり得られず、慣れ親しんだものより新品を買ってこられたりする。</p>	<p>居室にはエアコン、電動ベッド、押し入れが完備されており、また、仏壇や位牌、テレビや鏡台等、これまで自宅で使っていた馴染みの品を持ち込み、自由に配置することで居心地に配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>個々に合わせて座る席や居室の提供を行う。居室を換わる場合は、家族に相談しながら行っている。できるだけ移動に負担が掛からないよう工夫する。</p>	/	/

## V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
		○	4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
		○	3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない